

(このBOXは応募時に削除ください)

基本ルール: ファイル名の [チーム名] と [ロボアプリ名] 欄は作品応募に応じて変更してください。

※本テンプレートの色を変更することは問題ありません。

[サンプルアプリ(図書館)]

応募業種カテゴリ	サービス(自治体・公共施設・図書館)
	<small>* 画面下部のノート欄より転記ください</small>
チーム名	企画書サンプルチーム

本企画書サンプルは PepperAppChallenge2017 の応募に必要な企画書の記入例として作成されたものです。全ての記載は架空のもので、実現性・正確性はございません。

課題もしくは制作背景

図書館の課題：レファレンスサービスの拡充

専門スタッフの教育にはコスト発生

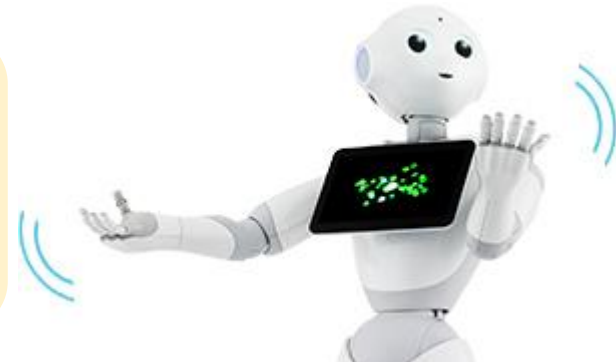
拠点ごとのサービスレベルの向上と標準化が困難

※参照：文部科学省制定「これからの図書館サービスの在り方」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/giron/05080301/001/003.htm

Pepper導入目的

図書DB、会員情報を参照し、
パーソナライズした本の
提案を実現

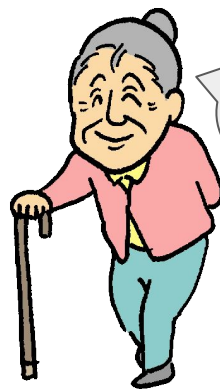
Pepperを置くだけでレベルの
高いサービスの提供が
可能に



ロボアプリ概要

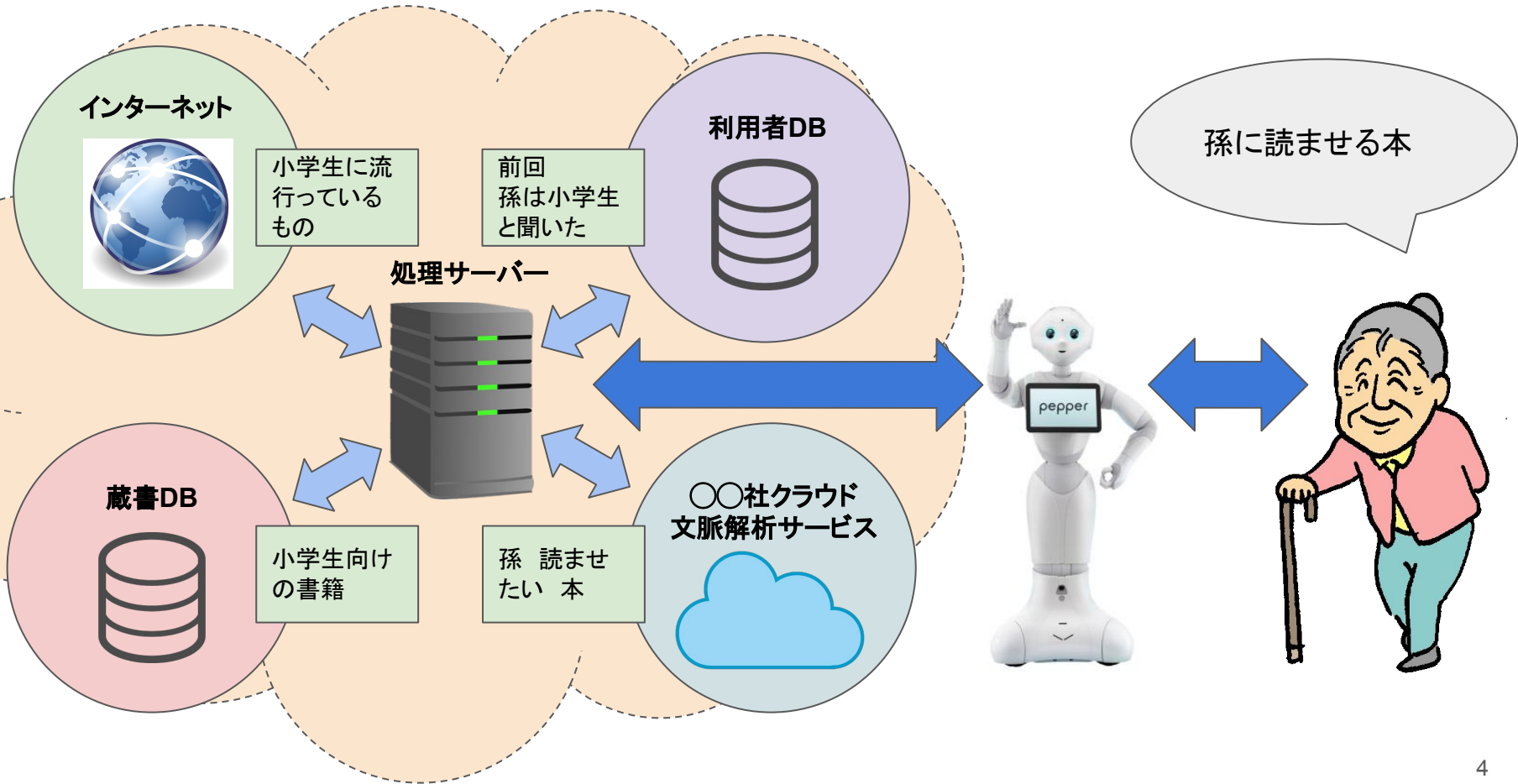
- 場所: 図書館
- 利用者: 図書館利用者
- アプリフロー
 - 利用者の希望から、蔵書DBより本を検索
 - ネット上から本に関する情報(レビュー、売れ行き等)を検索して提示
 - 会話から意図を理解 ※蔵書DBでは分からない要素である流行等を補完
 - 来館者情報(+顔認証)を管理し、過去ヒアリングした好きな本のジャンルや、孫の年齢等は記録

小学生向けの本を検索してみました。
今、小学生の男の子にはこのSFシリーズが流行しているみたいですよ！



孫に読ませる本何がいいかな？

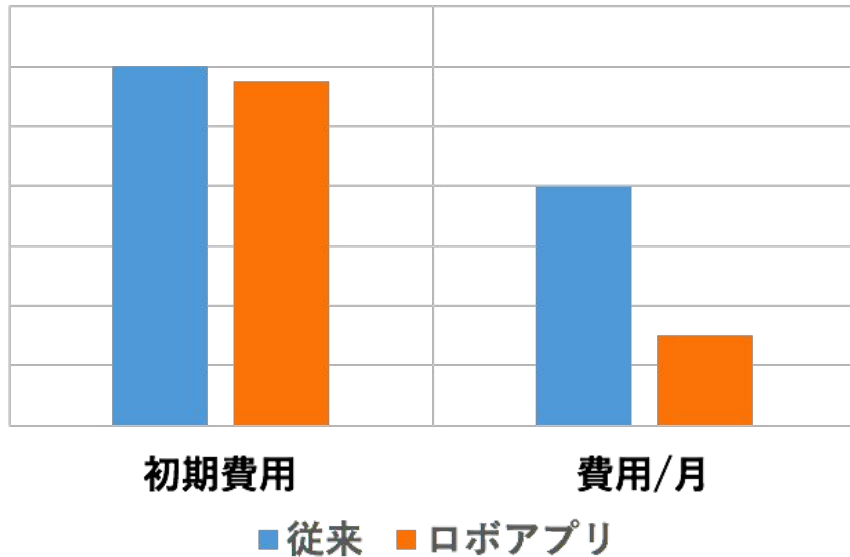
システム構成



導入効果

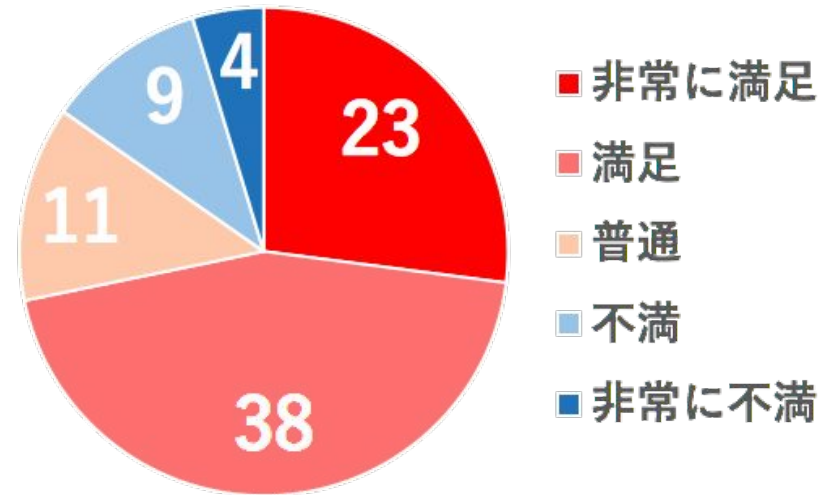
人件費/月を50%削減

スタッフと教育にかかるコストが削減され
月額費用を50%以上削減



満足度向上

85名に「従来のシステムと比べて」満足したかどうかアンケートを行った所、約7割が満足する非常に高い結果を得た



Pepperが居る図書館

あらゆる情報がインターネットで検索できる時代になり、単純な情報は全てスマートフォンで取得できるようになりました。

そんな時代で、図書館はインターネット上で不特定多数が配信した多角的で大量の情報と、書籍ならではの一貫した価値観の情報を組み合わせて、新しい価値を提供できる場所だと考えています。

現時点ではブックコンシェルジュですが、将来的には館内案内や提案機能を追加し、頼れる司書になることを夢見ています。未来の図書館をデザインするために、まずはPepperを置いてみませんか？

pepper